IVS Youth 2026 中高生ビジネスピッチコンテスト_新井理仁さん

00:00 AI時代に思考力を鍛えるLicht AIとは何か

【前半：英語プレゼンテーション】

[00:01.060 - 00:22.031]
新井さん: こんにちは、リヒトです。本日は、私たちが開発している「Licht AI（リヒトAI）」についてご紹介します。 Licht AIは、AI時代における全く新しいアプローチの「思考コーチング」サービスです。私たちは人間の「考える力」を守りたいと考えています。AIのようにただ答えを提示するのではなく、問いかけを行うことでそれを実現します。次のスライドをお願いします。

[00:22.031 - 00:42.963]
新井さん: 疑問が頭に浮かぶ前にAIが答えを出してしまう環境では、人は「考える」そして「（言葉で）表現する」という重要なステップを丸ごとスキップしてしまいます。人間の思考力というものは、筋肉と非常によく似ています。使わなければ衰えてしまうのです。
しかし現在の社会においては、進路選択、PBL（課題解決型学習）、面接、そして総合型選抜や自己推薦入試など、至る所で「自分のアイデアを自ら論理的に説明すること」が求められます。

[00:42.963 - 01:04.706]
新井さん: 私が実施したアンケート調査によると、高校生の多くが、こうした「進路の選択や自己表現」を非常に難しく感じていると回答しました。
思考力という「脳の筋肉」は、一朝一夕に鍛えられるものではありません。だからこそ、私たちは小学生という早い段階からチャット（対話）を通じてトレーニングを始めるべきだと考えました。
Lichtは、小学生向けの思考力を鍛える「筋トレ」のようなAI思考コーチです。

[01:04.706 - 01:31.200]
新井さん: 対象となるユーザーは子どもたち、そしてお金を払う顧客は保護者の方々です。私たちのビジネスは、「思考力養成プログラム」という、これまでにない全く新しい事業カテゴリーに位置づけられます。
製品の仕組みは非常にシンプルです。子どもが自分の意見を回答すると、AIが「どうしてそう思うの？」と問い返します。そして、交わされたすべての会話データは、最終的に「成長レポート（Growth Report）」としてまとめられます。

[01:31.200 - 01:53.989]
新井さん: 私たちのサービスは、「知識を教える（ティーチング）」のではなく、「内面を引き出す（コーチング）」ものです。そのため、私たちは「思考力」「意思決定力」「表現力」という3つの力を重点的に育てます。
利用料は月額約1,500円です。昨今、多くの保護者が子どもの将来に直結し、将来にわたって役立つ教育への投資を求めています。ビジネスモデルは、高い利益率と素早い投資回収を実現する、BtoCの月額サブスクリプションモデルを採用しています。

[01:53.989 - 02:19.068]
新井さん: 現在、日本には約600万人の小学生がいます。これは、ターゲットとなる市場規模が約1,000億円に達することを意味します。

私たちは学校に導入してもらうアプローチではなく、保護者の方々へ直接アプローチする戦略をとります。これによって、「継続して利用し、お金を払う価値があるプロダクトであること」をダイレクトに検証・証明します。

[02:19.068 - 02:46.860]
新井さん: ChatGPTやインターネットは単に答えを提示するだけですし、現在の多くの学校は知識を詰め込む教育にとどまっています。対して、Lichtは「どう考えるか」、そして「それをどう表現するか」を徹底的にトレーニングします。
また、私たちは子どもたちが考え、決断するプロセスを助けるための、他社には真似できない独自の対話データを年間を通じて蓄積していきます。

なぜ私がこの課題に取り組むのか。それは、私自身がまさにAIと共に生きる世代の一員であると同時に、今まさにAIの普及によって自分の将来の選択（キャリア）に大いに悩んでいる当事者だからです。

[02:46.860 - 03:08.099]
新井さん: ロードマップとして、2027年中に公式ローンチを行い、2028年には中学生や高校生向けにも対象を拡大する計画です。
今回、プロダクトのMVP（最小限の試作品）を完成させ、実際の子どもたちや保護者との実証テストを行うために、300万円の資金調達を実施します。
AIは答えを与えますが、Lichtは問いかけます。ご清聴ありがとうございました。

【後半：質疑応答】

[03:08.639 - 03:20.719]
司会: ありがとうございます。では、質疑応答（Q&A）に移らせていただきます。こちらのQRコードもぜひスキャンしてください。では、中原さん、お願いします。

[03:20.719 - 04:01.780]
中原さん: プレゼンありがとうございました。私自身も最近、AIに頼って自分で考えなくなってきているなと感じることがあるので、この事業の課題感には非常に共感します。
プレゼンの中でおっしゃっていたように、「考えること」は脳に負担がかかる大変な作業なので、ついつい考えることから逃げてしまい、気づけばそのまま高校生になって進路の選択に困る、ということは実際にあると思います。

ある意味、思考の「筋トレ」としてお金を払ってやってもらう仕組みだということは理解できたのですが、やはり子どもにとって自分で考え続けるのは大変なことです。「答えるのが難しい、面倒だな」と感じてしまう子どもに対して、トレーニングを長く続けてもらうためのモチベーション（動機づけ）やインセンティブ、飽きさせないための工夫などはどのようにご用意される予定ですか？

[04:01.780 - 04:56.269]
新井さん: ご質問ありがとうございます。
実を言うと、当初は中学生や高校生向けにこのプロダクトを作る予定でした。しかし、高校生である私たちが同じ高校生向けに作ろうとすると、テーマが複雑すぎて設計が非常に難しくなってしまいます。大人向けの視点で作るのであれば簡単かもしれませんが、同世代の視点から「自発的に考えさせる」ための設計は、難易度が高すぎたのです。

そこで、まずは小学生へとターゲットを絞ることにしました。小学生に対しては、例えば親しみやすい「絵本」のストーリーを題材にした読解問題などを出題し、それについて自分の意見を答えてもらう形にしています。

そうした「考えるのが楽しくなるような問いかけ（クエスチョンデザイン）」を作る点に関しては、私たちの強みが活きています。というのも、私たちは在籍している高校で「探究学習」を専門的に行うコースに所属しています。そのため、問いを自らデザインし、それを子どもたちに投げかける設計を行うことについては、非常に得意ですし絶対にできるという強い自信を持っています。
まずはAIで親しみやすい読解問題を作成し、小学生に対してアプローチを行い、そこから対話を深めていく（問い返す）というのが、今回私たちが構築したモデルになります。

[04:56.269 - 05:03.319]
司会: ありがとうございます。他にご質問ありますか？ はい、では向川さんお願いします。

[05:03.319 - 05:48.060]
向川さん: どうもありがとうございました。プロダクトの中身（提供価値のウェイト）について、確認させてください。
先ほど別の登壇者（アレックスさん）が発表していた教育ツール「Spark」と発想が少し近い部分があるなと感じました。あちらのSparkは、どちらかというと「算数の問題などを解くときに、答えを直接教えるのではなく、ヒントを出して何度も問いかけることで、自分で思考プロセスを構築させること」が中心だったかと思います。

一方で、今回のLichtが提供する「AI時代の思考力」を考えたとき、単に「自力で考える力をつける」だけでなく、「進化したAIというツールを自分自身でどう活用し、思考の幅を広げたり、アイデアをまとめたりするか」という「AIを使いこなすための思考力」という側面もあるかと思います。
今回のプロダクトでは、どちらの側面にウェイトを置いて設計されているのでしょうか？

[05:48.060 - 06:29.819]
新井さん: ご質問ありがとうございます。
前提として、私たちは数学などの五教科の学力向上にフォーカスしているわけではありません。
私たちが定義する思考力とは、「論理的に物事を捉え、最終的にそれらを自分の言葉で説明できるようになる力」です。
例えば、「なぜ自分がこの学校を選んだのか」という進路の理由を説明するときには、「自分のメリットとデメリットを天秤にかけて論理的に決める」といった段階的な思考プロセスが必要になります。このように、自分の頭で決断し、それを相手にしっかり説明できるようになることを、私たちは「思考力」と呼んでいます。

したがって、後者の「論理的思考力をどうやって鍛えるか」というアプローチにおいて、AIを効果的な『対話の相手（コーチ）』としてどのように活用していくかという点に、私たちのプロダクトのウェイトは大きく置かれています。

向井さん: なるほど、よく分かりました。主旨を理解できました。ありがとうございます。

話者A: ありがとうございます。

[06:29.819 - 06:51.319] 司会: ありがとうございます。他にご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか？
……なければ、これで終了とさせていただきます。ありがとうございました！